

中学校サッカー選手とクラブチームサッカー選手の意識に関する比較研究
ーサッカー有能感・ライフスキル・学校生活スキルの比較ー

教科・領域教育専攻

生活・健康系コース (保健体育)

大原 航平

指導教員 藤田雅文

I. 緒言

1993年に開幕したJリーグが、地域で活動するクラブに与えた影響は大きく、この年を境に地域サッカークラブは全国で急激に波及していった。一方で、文部科学省は、教員の働き方改革として、休日の部活動を教員が行うのではなく、段階的に地域に移行していくと示した。このように徐々に部活動を縮小していこうとする動きがあるが、学校部活動に期待される社会的規範の享受等の「人間教育」が、地域のクラブチームにおいても機能しているのかについては疑念を抱く。そこで、本研究では、クラブチームと中学校部活動のサッカー選手のサッカー有能感¹⁾、ライフスキル²⁾、学校生活スキル³⁾に関する意識の実態にどのような相違点があるかについて明らかにしていくことを目的とした。

II. 研究方法

1. 調査の対象

K県の中学生年代のクラブチーム3チーム

A: 62名, B: 17名, C: 52名,

K県の中学校サッカー部4チーム

D: 30名, E: 16名, F: 17名, G: 30名,
計224名

2. 調査の方法

(1) 訪問・留置法による質問紙調査

(2) クラブチームのスタッフに対する電話インタビュー

3. 質問紙調査の内容

(1) 回答者の属性

①学年 ②サッカー経験年数
③ポジション ④選抜経験

(2) サッカー有能感

①状況に応じたパス&コントロール
②ドリブル技能 ③守備技能
④ヘディング技能 ⑤スピード
⑥力強さ ⑦競技意欲
⑧リーダーシップ

(3) ライフスキル

①目標設定 ②考える力
③ストレスマネジメント ④感謝する心
⑤コミュニケーション ⑥挽回行動
⑦謙虚な心 ⑧礼儀・マナー ⑨体調管理

(4) 学校生活スキル

①自己学習スキル ②進路決定スキル
③集団生活スキル ④健康維持スキル
⑤同輩とのコミュニケーションスキル

4. 分析方法

Microsoft Excel 2018を用いて単純集計、クロス集計及び平均値の差のt検定を行った。また、統計ソフトjs-STARにより χ^2 検定を行った。

III. 結果と考察

1. サッカー有能感

各回答者のサッカー有能感の合計点を算出し、クラブチームと中学校サッカー部の選手全体の平均値と標準偏差を算出し、両群の間にサッカー有能感に違いがあるのかを分析した。その結果、0.1%水準で有意差が認められ、クラブチームの選手の方が明らかに高いことが判明した。

2. ライフスキル

各回答者のライフスキルの合計点を算出し、クラブチームと中学校サッカー部の選手全体の平均値と標準偏差を算出し、両群の間にライフスキルに違いがあるのかを分析した。その結果、0.1%水準で有意差が認められ、クラブチームの選手の方が明らかに高いことが判明した。

3. 学校生活スキル

各回答者の学校生活スキルの合計点を算出し、クラブチームと中学校サッカー部の選手全体の平均値と標準偏差を算出し、両群の選手の間で学校生活スキルに違いがあるのかを分析した。その結果、0.1%水準で有意差が認められ、クラブチームの選手の方が明らかに高いことが判明した。

4. サッカー有能感のチーム間の差

最も平均値の高いCチームと他のチーム間に、サッカー有能感に差があるのかを分析した結果、クラブチーム間には有意差は認められなかったが、中学校の全てのチーム間で0.1%水準の有意差が認められ、Cチームの方が有意に高いことが判明した。

5. ライフスキルのチーム間の差

最も平均値の高いCチームと他のチーム間にライフスキルに差があるのかを分析した結果、クラブチームのAチームと中学校のDチーム間

には有意差は認められなかったが、それ以外のチーム間では0.1%水準の有意差が認められ、Cチームの方が有意に高いことが判明した。

6. 学校生活スキルのチーム間の差

最も平均値の高いCチームと他のチーム間に学校生活スキルに差があるのかを分析した結果、クラブチーム間には有意差は認められなかったが、中学校の全てのチーム間で0.1%水準の有意差が認められ、Cチームの方が有意に高いことが判明した。

Cチームは、加入時にセレクションを行い、選抜経験のある選手が多く所属し、練習環境と指導スタッフが整っているため、サッカー有能感が高いと考える。また、ミーティングを頻繁に行い、選手同士、指導者と多くコミュニケーションをとっており、個人面談やチームで勉強会を行っているため、ライフスキルと学校生活スキルが高いと考える。

IV. 文献

- 1) 安部久貴・村瀬浩二・落合優・射手矢岬・鈴木直樹(2018), 指導者の言葉がけがユース年代の選手のサッカー有能感に与える影響, 体育学研究, 63(1): 87-102.
- 2) 清水聖志人・島本好平・河野隆志・山本浩二・岡井理香(2018), ユースアスリート用ライフスキル評価尺度の開発, 2018年度笹川スポーツ研究助成: 208-213.
- 3) 飯田順子・石隈利紀, (2002), 中学生の学校生活スキルに関する研究—学校生活スキル尺度(中学生版)の開発—, 教育心理学研究, 50(2): 225-236.